

住宅産業新聞連載 街づくりのための11のヒント

～③文化と飲み屋は都会の特権～

2023.3.28

大東建託賃貸未来研究所長 宗健

「いい部屋ネット街の住みこちランキング」の分析結果等を踏まえて街づくりのためのポイントを解説する連載。第3回目は、交通手段の違いによる飲みに行く習慣の違いや、美術館・博物館の存在、コンサートやイベントなどの文化面の地域差について考えてみたい。

大都市部、特に首都圏に住み、都心のオフィスビルで勤務している人たちからすれば、コロナ禍前ほどではないかもしれないが、電車で通勤し、週に何度か接待や会合で飲んで帰るとするのは、当たり前前の習慣だろう。

しかし、街の住みこちランキングの個票データを都道府県別に集計してみると、そうした習慣は大都市の一部だけの習慣であることが分かる。

「よく飲みに行く」という設問に yes と回答した割合を見ると、上位には東京都、神奈川県、大阪府、京都府といった大都市部が多く、下位には鳥取県、福井県、秋田県、長崎県といった地方が多い。

このうち沖縄県には模合と呼ばれる飲み会を伴う文化があることが背景にあるが、沖縄県以外では、鉄道を日常の交通手段として使っている比率が高い地域でよく飲みに行くという回答が高く、クルマを日常の交通手段として使っている比率が高い地域では、よく飲みに行くという回答が低くなっている。47都道府県の「鉄道をよく使う」と「よく飲みに行く」の回答の相関係数は、0.71 と非常に高く、独自の文化的背景のある沖縄県を除くと相関係数は0.82にまで上がる。

さらに、市区町村別に見ていくと、良く飲みに行く上位は、東京都中央区の30.4%、東京都千代田区の29.9%、東京都新宿区の28.3%、大阪市北区の27.9%、大阪市中央区の27.9%といった街で、鉄道をよく使う1位は東京都中央区の59.4%、2位は文京区の59.4%、3位は杉並区の59.0%などとなっている。

また、最近では地方と都市部の美術館や博物館といった文化施設の多寡や、コンサート等のイベントの多くが大都市部で開催される、といった文化面での地域差を指摘する声もあるようだ。

しかし、住みこちランキングの個票データを都道府県別に集計してみると、生活圏に美術館や博物館といった文化施設があると回答した比率は20-30%程度となっており地域差はあまりない。

これは、クルマ移動中心で生活圏が比較的広い地方と、生活圏が比較的狭い大都市圏という生活圏の広さの違いが背景にありそうだ。それでも、文化施設の質的な違いや、地方からコンサート等のイベントに参加するためには交通費や宿泊費といった追加コストがかかることから、体感的な文化面での地域差はそれなりに大きいだろう。

しかし、こうした文化的側面の地域差は、地域社会の移住者への受容性を引き下げたりする原因になるというよりも、人口減少という大きな社会の流れによって生まれた結果と考えるべきだろう。

これから普及するであろう自動運転車が、生活様式に与える影響は非常に大きいことがよそうされるが、現状おでは、まだまだ文化と飲み屋は都会の特権だと言えるだろう。